

## 福井の原発を考える①

原発問題住民運動福井県連絡会

事務局長 林 広員

30万署名



西川一誠福井県知事は、今年の1月22日、福井県庁で記者会見し関西電力高浜原発3、4号機の再稼働に同意を表明した。「原発の再稼働に同意しないでください」と願う多くの人々の想いを署名に込めて渡していたのに……

←12/14 県民署名第二次提出行動

私は、その日10時すぎから県庁一階の受付の横で待っていた。手に西川知事宛の「もう動かすな原発！福井県民署名」の束を握りしめて。西川知事を待っていたわけではない。県の原子力安全対策課の担当者に県民署名を渡すためだ。受付嬢から「担当者が下りてきますのでお待ちください」と言われてもう1時間たっている。再度連絡してもらおうと「もう少しお待ちください。必ずお話しできるものが対応します」との返事。署名を早く渡したいとの思いでいらいらしているその時、隣の女性のスマートフォンの画面のトピックスで「西川福井県知事、高浜原発の再稼働を同意。新規制基準で国内3例目」とでていたのではないかと待たされること約2時間、担当者に第三次提出分として142筆を手渡した。西川知事の記者会見は終わったらしくマスコミの腕章をした記者やカメラマンがぞろぞろとエレベーターから降りてきた。原発問題住民運動福井県連絡会は、記者会見後すぐに西川知事に対して抗議と同意の撤回を求める申し入れ書を提出した。

翌日の新聞には、林経済産業大臣に再稼働の合意を伝達している西川知事の姿が一面トップを飾っていた。福井新聞の知事会見一問一答要旨には、同意判断の決め手は？との問いに「県民が、再稼働してもいいという気持ちがあるだろうというのが根っこにあった。これが一番大事」と書かれていた。

県民署名は、小浜市の明通寺の中寫哲演住職が提唱して一昨年の8月から本格的に集め始めた。県内の17自治体の住民が自治体ごとに実行委員会を作り地域やネット署名でも呼びかけたところ県内外から反響が大きく予想以上に署名が集まってきた。昨年2月20日に20万筆を超えて知事に渡すべく県の担当者と交渉したが知事は直接の対応を拒否した。そのため一度県庁へ運んだ署名は持ち帰った。過去に中川平太夫知事も栗田幸雄知事も原発の反対のグループと直接会って対応したことがある。特に栗田知事は1994年と1997年の2度20万筆を超える原発増設に反対する署名と「もんじゅ」を動かさないでくださいという署名を知事出務室に署名グルー

プを同席のもとで受け取った記録が残っていた。「なぜ西川知事は、直接対応しないのですか？」と質問状を送ったが返事はなかった。佐藤正雄県議(日本共産党)が県議会で知事に質問した。「知事は関西電力の社長とは面談するのに原発反対の団体とはなぜ会って意見を聞かないのか？」と。知事は答弁の中で「県として原発事業者を管理指導する義務があるので対応している。(署名の実行委員会とは)一番原発に精通している者が会って内容は報告を受けている」と述べている。

その後統一地方選挙の知事選挙が告示される前の日、3月24日に第一次分として20万5009筆を再度県庁に持参し野路博之・原子力安全対策課長に手渡した。そして先週12月14日に第二次分9万4650筆を野路課長に提出するとともに高浜原発の再稼働を認めないように申し入れた。県民署名は、その後も集まり12月末までに30万筆を超えて30万488筆を福井県知事宛に提出した。福井県で集めた原発署名では、過去に類のない30万突破となり文字通り「30万署名」となった。

福井県民の生命と安全に責任を持つ知事は、この人々の声にどう答えるのだろうか。過去に「もんじゅ」の運転再開でも大飯原発3・4号機再稼働でも世論を無視して同意した西川知事、県民署名の直接の対応を拒否し続け同意表明した姿に怒りを禁じえなかった。

「あなたは、西川知事に文句を言うけど、政府と交渉して補助金を得るなど福井県のためによくやられているよ」とある人から言われました。しかし「経済」や「お金」と「原発」とは問題が違います。「原発」の怖さを感じたこと……それは、いまから10年以上前、敦賀で働いていた時の出来事が始まりで「原発」を意識した第一歩でした。